

在宅人工呼吸器使用者の リスクマネジメント講演会

開催のご案内

参加費
無料

社団法人日本筋ジストロフィー協会は、1964年患者およびその家族の援護と福祉の増進に寄与することを目的に設立され、福祉・療育相談等の活動を進めています。

一昨年3月11日、東日本大震災が発生しました。筋ジストロフィー協会では、在宅患者の安否確認・支援活動等の対応を行ってきました。そのような中で患者・家族は、様々な困難に遭遇しながらも、繋がり、支えあい、明日を見ながら今日まで生活をしてきました。

医療的なケアが必要な方々は、あと少しの支援があれば、あと少し自分自身を守る術を知っていれば、苦しまずにすむ避難生活があります。そして、今も「あと少し」を待っている方々がいまいます。今回の講演では、被災当事者である当会会員、および災害弱者への支援活動を行う難民を助ける会東北事務所の方より、災害時のリスクマネジメントや震災当時から現在に至る支援活動の内容についてお聴きいただきたいと思っております。皆様の「あと少し」にお役立ていただける機会となれば幸いです。

日時 平成25年 **4月12日(金)**
18:30～20:10 (受付18:10～)

会場 仙台市シルバーセンター
7階・第一研修室
宮城県仙台市青葉区花京院1丁目3番2号
TEL 022-215-3191



参加申し込みは裏面の申込書にご記入の上
FAXにてお申し込みください。

お問い合わせ

なとり生活支援センター 担当：水沼
TEL:022-382-9855

講演内容

- 18:30～18:35 開会のあいさつ
筋ジストロフィー協会宮城県支部
支部長 佐藤 隆雄
- 18:35～19:15 「在宅療養者のためのリスクマネジメント」
～東日本大震災の教訓から～
(主に人工呼吸器使用者の災害に対する備えについて)
当事者 櫻井 理氏
- 
【講師紹介】
櫻井理 (さくらいさとる) 宮城県名取市で被災、37歳。筋ジストロフィーによる呼吸不全のため24時間人工呼吸器を装着し在宅で生活。東日本大震災の際、宮城県沖地震を想定した備えで3日間の停電を自力で乗り切りました。震災体験と在宅介護の工夫や課題を紹介します。
- 19:20～19:50 「災害と障害者—東日本大震災被災者支援の現場から—」
AAR Japan 【難民を助ける会】
東北事務所長 野際 紗綾子氏
- 19:50～20:05 質疑応答
20:05～20:10 閉会のあいさつ
宮城・仙台障害者相談支援従事者協会

主催：社団法人日本筋ジストロフィー協会宮城県支部 共催：宮城・仙台障害者相談支援従事者協会

この講演会は公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団の助成を受け実施しております。

FAX送信用紙

あて先：なとり生活支援センター (FAX 022-382-9850)

「在宅人工呼吸器使用者リスクマネジメント講演会」

(平成25年4月12日開催)

= 参加申込書 =

所属(団体名)

電話

	ふ り が な
	氏 名
1	
2	
3	

連絡先：なとり生活支援センター
担 当：水沼

TEL：022-382-9855
FAX：022-382-9850